

わたしの中にあるふるさと 29

## スミ子さんの ボールペン

庄原出身の若い友人から「引っ越しました」の便りが届いた。進学のため庄原から廿日市に引っ越して以来、彼は10年ちょっとの間に広島市西区に2カ所、東区に1カ所、そして今回は府中町へと引っ越しを繰り返している。「すいぶん忙たらしいことだな」と、人生であまり引っ越しをしたことがないわたしは頬を緩めた。

引っ越しではないけれど、忘れない「転居」がある。小学校から中学校に上がるタイミングで家を建て替えたときだ。うちは商売をしていたので、1階が店舗で、2階が居住空間、母屋は別にあつたけれど、全面的な新築である。そのことによって初めて自分の部屋が与えられた。何よりもそれがうれしくて仕方なかつた。



引つ越しではないけれど、忘れない「転居」がある。小学校から中学校に上がるタイミングで家を建て替えたときだ。うちは商売をしていたので、1階が店舗で、2階が居住空間、母屋は別にあつたけれど、全面的な新築である。そのことによって初めて自分の部屋が与えられた。何よりもそれがうれしくて仕方なかつた。

建て替えを機に、別れがあつた。わたしが生まれるより前から我が家に住み込みで働いていたスミ子さんが、郷里に戻ることになつたのだ。お客様の前に出るときはウイッグをかぶつておしゃれをし、タバコが好きで、ちょっと粋な感じの人だつた。幼いころのわたしは、母や祖母にひどく叱られると、よくスミ子さんのもとに避難して、一緒の布団で寝た。

「入学のお祝いは何がいい?」と、スミ子さんに尋ねられ、わたしはちょっと高そうな文房具をねだつた。キャップの付いた、琥珀色のきれいなボールペンだ。「勉強するんよ」と、いつものようにカラリと笑い、スミ子さんはあまり多くない荷物を持って、近所の停留所からバスに乗つて去つて行つた。ボールペンはとうに書けなくなつてしまつたが、今もわたしの引き出しの中にある。

土蔵や商家など往時をしのぶ建物がそこかしこに残る「白壁の町」をゆく。

白壁が美しい上下町の中心部。銀山街道には2つルートがあり、上下を通る石州街道は人や文書の往来が主だったと考えられている



長谷部氏の居城だった翁山城址

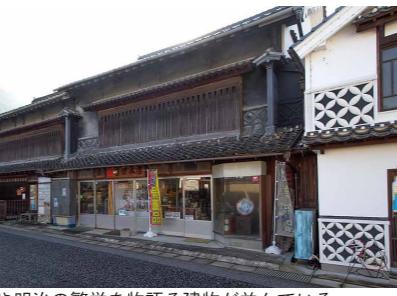
「上下は交通の要衝であり、宿場町としてにぎわいました。山陰側の三次、東城町から十里約40キロ)、山陽側の福山、尾道、三原方面へも十里であることから『十里堂』という



「近年は海外からの観光客も増えています」と府中市上下歴史文化資料館館長の守本祐子さん

## 上下町 (府中市)

■いきいきタウン、ふるさと発見記  
幕府の直轄地、天領として栄えた町



江戸や明治の繁栄を物語る建物が並んでいる



石州街道の一角に立つ江戸末期の道標

白壁、なまこ壁、黒漆喰、格子窓。まるで時間が止まつたような街並みが、石州街道沿いに延びています。上下はかつて江戸幕府の直轄地「天領」として栄えた町です。その歴史を伺いに「府中市上下歴史文化資料館」館長の守本祐子さんを訪ねました。

「上下は標高400メートル足らずに位置しますが、町中、つまり人々の生活圏に分水嶺があります。上下という名が古文書に出てくるのは1500年代のこと。上下とはよく名付けたもので、どこから来ても上つて下らなければならない、そんな土地なんです。伝説ではスサノオノミコトが水を飲んだという逸話も残っています。古くから吉備と出雲、また備後と備中の文化が交わる地でした。

中世は『平家物語』にも登場する長谷部氏の子孫が『翁山城』に居城したと伝えられています)。

近世に入り、上下は大きな転換期を迎えます。広島藩(浅野氏)と福山藩(水野氏)の支配下に置かれますが、後継ぎ不在のため水野家が断絶してからは5万余石が幕府の直轄地となつたのです。

「上下は交通の要衝であり、宿場町としてにぎわいました。山陰側の三次、東城町から十里約40キロ)、山陽側の福山、尾道、三原方面へも十里であることから『十里堂』という